

震災復興支援で平野啓子審議委員が講演 茨城県日立市の明秀学園日立高校で

日本語が好きだから



語り部として多彩な活動続ける大阪芸術大学教授で日本語検定委員会審議委員の平野啓子さんが6月29日、茨城県日立市の明秀学園日立高校（中原昭校長）で東日本大震災被災地の復興に向けての激励と応援のための特別講演を行いました。

この講演会は、東日本大震災復興支援プロジェクトの一環として開催されたもの。同校が生徒や保護者、地域住民に元気になってもらおうと企画しました。「語り」の第一人者として活躍中の平野さんは、会場の体育館に集まった同校の生徒や保護者、地域の住民ら約1000人に対して、「語り」の世界を披露しました。

演題は「語りは心の絵画」。平野さんは「語りは自分の心に刻み込んだ言葉を自分の心の表現として声で伝え、相手はその内容を想像し、心の中で絵にしたり、映像にしたりする世界。今日は、全文暗誦の語りの世界と朗読の世界を体験して欲しい」と前置きし、古典や文学を題材に1時間20分近く講演しました。

平野さんが講演で取り上げた題材は、芥川龍之介の児童文学作品「蜘蛛の糸」や高校の現代文の人気教材と言われる中島敦の短編小説「山月記」など。独特の言葉の響き、音の楽しさのある「語り」の世界を、身振り手振りを交えながら表情豊かに演出し、会場は平野さんの世界に引きずり込まれた様子でした。

また、「祇園精舎の鐘の声……」の有名な書き出しで知られる平家物語や枕草子の「春はあけぼの」を参加者と一緒になって朗読。朗読と語りの違いなどを、「語り」の世界を切り開いてきた苦労話なども交えながら説明しました。

昨年3月の東日本大震災については、「震災で皆さんは大変な目にあったが、これを通して普段できない密度の高い本当の人間関係の交わりを体験できた。これからも元気にがんばってほしい」などとエールを送り、最後に会場全員で宮沢賢治作の詩「雨ニモマケズ」を朗読しました。

